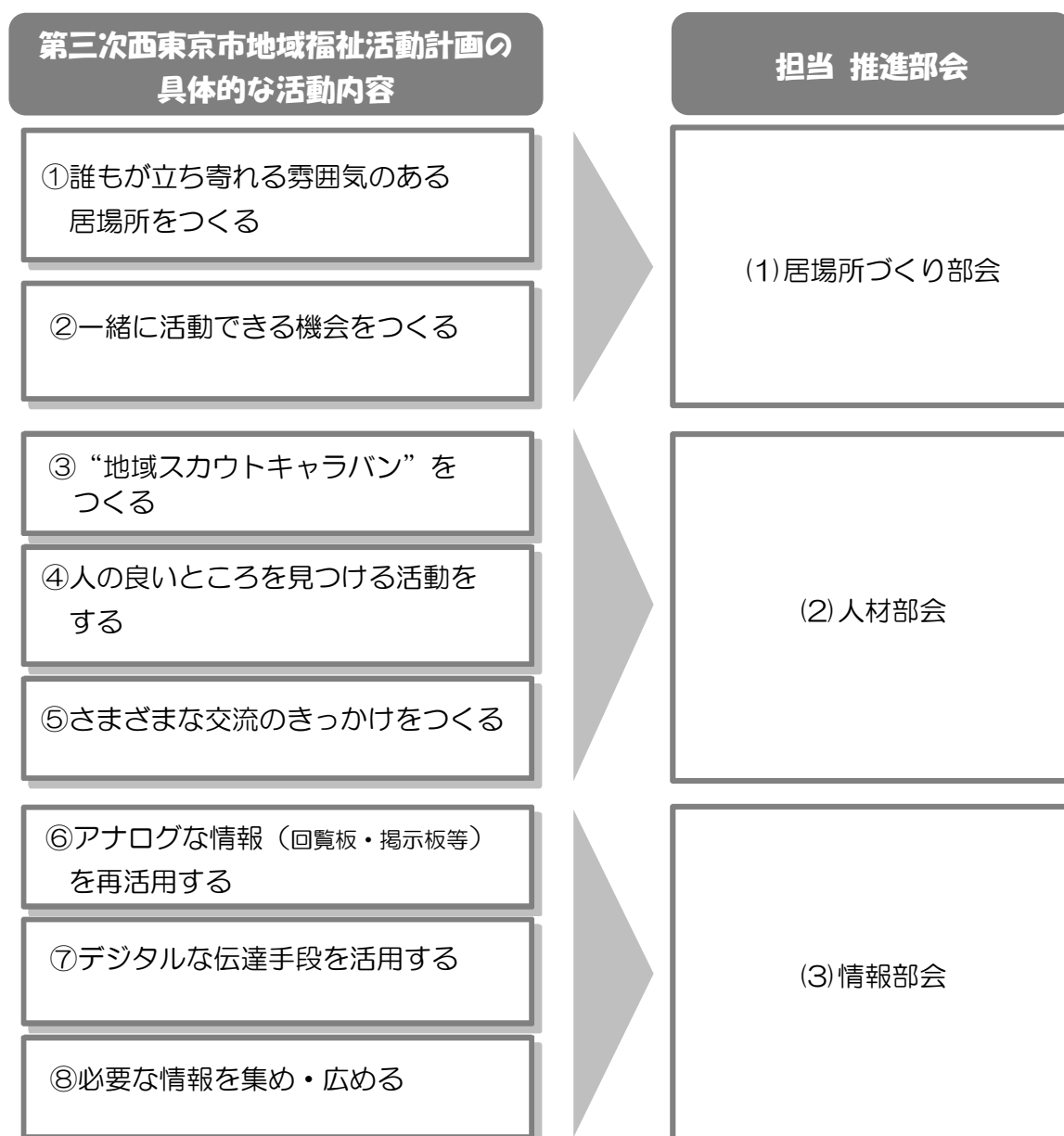


第3章 第三次西東京市地域福祉活動計画の取り組みと成果

1. 具体的な活動の取り組みと成果

第三次西東京市地域福祉活動計画（平成 26（2014）年度から平成 30（2018）年度）は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるために、地域における福祉課題の解決を目指して、住民や団体が行う地域福祉活動を中心にとりまとめられた計画です。

その推進にあたっては、推進部会（以下「部会」という。）を設置し、計画における次の8つの“具体的な活動内容”を実施するために、「(1)居場所づくり部会」、「(2)人材部会」、「(3)情報部会」の3つの部会を置き、社協と各部会員が連携し、地域住民とともに取り組んできました。また、計画の推進に伴い、本会が設置する第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会において、各部会の取り組みの進捗状況について進行管理を行いました。



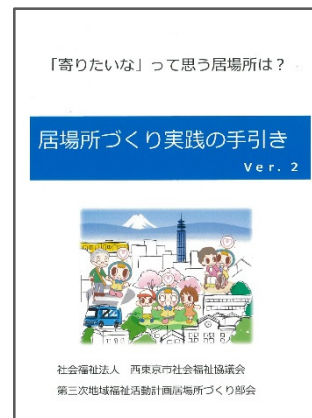
《具体的な活動内容》

①誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる（居場所づくり部会）

《取り組みと成果》

社協の地域活動拠点の一つ『ほっとハウスみどり』において、サロン活動（名称：よってらっしゃい）を立ち上げ、継続的に取り組んできました。この活動を通じて、地域の子どもたちや高齢者の居場所として定着したほか、地域のさまざまな情報が入ってくるようになり、加えて地域課題を解決するための話し合いの場が設けられるなど、住民の福祉に対する意識の向上につながっています。

また、『「寄りたいな」って思う居場所は？-居場所づくり実践の手引き-』（以下「手引き」という。）を作成し、この手引きを活用して、サロン立ち上げ講座を実施したり、社協のホームページ等を通じて、広く周知することによって、サロン活動をしてみたいという方々に情報が届き、市内におけるサロン活動を増やすことにつながりました。



＜居場所づくり実践の手引き＞

▼居場所づくり実践の手引き（PDF：1.97MB）

※サイトへの接続、利用には、パケット通信料が発生します。

http://www.n-csw.or.jp/files/3315/4953/3026/2019ibasyozukuritebki-Ver_2.pdf



《具体的な活動内容》

②一緒に活動できる機会をつくる（居場所づくり部会）

《取り組みと成果》

「よってらっしゃい」の活動を継続的に展開することで、サロン活動への参加者が増加したほか、参加者だった方が、協力者として活動に取り組んでもらえるようになりました。

こうした取り組みにより、部会員が改めて居場所づくりの必要性を感じることができ、



＜よってらっしゃいの様子＞

手引きの作成に取り組みながら、地域福祉活動計画の目的を再確認することができました。

手引きを活用したサロン立ち上げ講座では、これまでの取り組みによる体験談等を披露することで、自分たちの活動を振り返ることができ、また、受講者による新たなサロンの立ち上げにもつながり、サロン活動者同士の仲間づくりができています。

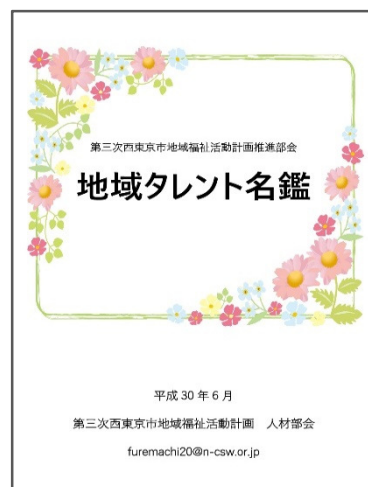
《具体的な活動内容》

③『地域スカウトキャラバン』をつくる（人材部会）

《取り組みと成果》

特技をもった人材「地域のタレント」を公募し、その技術を活かしてイベント等を開催することができました。部会員がそれぞれにコーディネーターの役割を担うことができるよう、特技をもった人が地域で活躍できる場をつくるための人材のリスト『地域タレント名鑑』を作成しました。

また、西東京市市民協働推進センターゆめこらぼが取り組む「NPO 市民フェスティバル」でも、タレント名鑑に登録されている活動者による特技披露を行うことができ、市民活動者等とのさまざまなつながりが広がりました。



＜地域タレント名鑑＞

《具体的な活動内容》

④人の良いところを見つける活動をする（人材部会）

《取り組みと成果》



＜人材部会の活動をPR＞

地域で開催される各種イベントの中でも、積極的に「人の良いところを見つける」プログラムを展開しています。具体的には、公民館等のイベントを通じて、「私にもできるかも」、「私もやってみたい」という気持ちを引き出し、次の一步を踏み出すきっかけをつくるなど、新たなつながりをつくることができました。また、地域活動拠点ごとで、地道に活動するボランティア活動者同士が、その活動力をお互いに活用するなどの有効な方法について検討を進めました。

《具体的な活動内容》

⑤さまざまな交流のきっかけをつくる（人材部会）

《取り組みと成果》

人材情報のデータ化や、誰もが活動者（人材）と人材を必要とする人（団体）をコーディネートできるように、マッチングシートを作成した結果、部会員のコーディネート力が高まりました。また、地域活動拠点を基盤に、そこで活動する団体同士の横のつながりができ、新たなサロン立ち上げ等につながりました。



＜高齢者施設で特技を披露＞

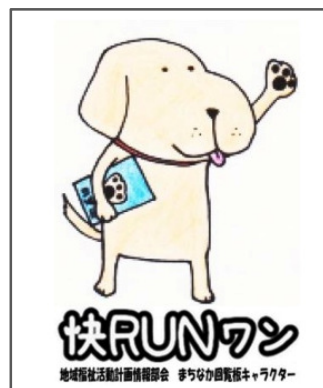
《具体的な活動内容》

⑥アナログな情報（回覧板・掲示板等）を再活用する（情報部会）

《取り組みと成果》

情報部会での検討にあたっては、部会員として関係団体及び大学生が参加し、それぞれがもつネットワークやつながりを活かし、回覧板の再活用を検討することができました。

具体的には、モデル地区（集合住宅）を選定して、回覧板に関するニーズや現状についてのアンケート調査を行いました。実施にあたっては、宅建協会や学生の協力が得られたほか、ロゴ・シンボルマークの作成にも学生が中心となって関わり、親しみのある効果的な調査を実施することができました。



＜まちなか回覧板キャラクター＞

さらに、回覧板キャラクター『快 RUN ワン!』を作成し、親しみやすい回覧板づくりに取り組むことができました。

平成 27（2015）、28（2016）年度の自治会アンケートでは、回覧板が回る仕組みがあっても自治会参加率が低いいため、情報が限られた人にしか伝わっていないことがわかりました。回覧板の内容の充実よりも自治会の活性化が最優先ということで、現在も自治会の役員会等に参加し、意見交換等を行っています。

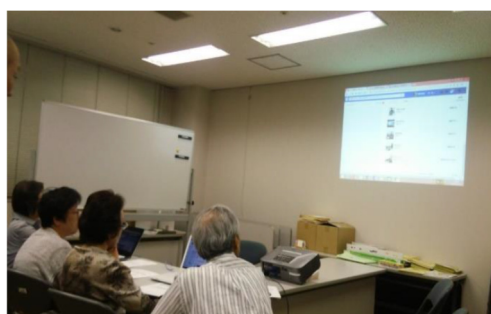
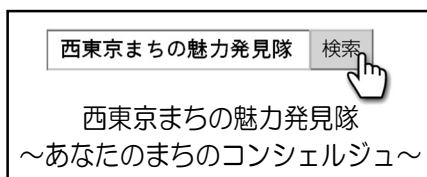
《具体的な活動内容》

⑦デジタルな伝達手段を活用する（情報部会）

《取り組みと成果》

活動内容を知ってもらうための取り組みとして、フェイスブック（Facebook）運用ルールを部会で作成し、他団体へも参加の呼びかけをしているところです。

またフェイスブック学習会を企画、実施することができ、部会員が互いに情報を発信できる環境を整えました。



＜フェイスブック学習会の様子＞

《具体的な活動内容》

⑧必要な情報を集め・広める（情報部会）

《取り組みと成果》

当項目については、「アナログな情報（回覧板・掲示板等）を再活用する」及び「デジタルな伝達手段を活用する」の項目の取り組みと統合し、実施しました。

2. 具体的な活動内容の取り組み結果から見る継続的な課題

- サロンマップの作成や、サロン活動者のネットワークづくりについて検討する必要があります。
- 『「寄りたいな」って思う居場所は？-居場所づくり実践の手引き-』について、活用方法を明確にしておく必要があります。
- 「居場所づくり」、「サロンに関する取り組み」について、地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーター、ふれあいのまちづくり事業等、さまざまな担当が関わっており、役割、目的等を整理し、今後は維持、継続させていく視点を取り入れる必要があります。
- 『地域タレント名鑑』等人材の活用については、引き続き西東京ボランティア・市民活動センター、西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ等との連携、協力を図る必要があります。
- 社協が実施する事業（ボランティア・市民活動センター、ほっとネットステーション、地域サポート「りんく」等）における人材が循環するための仕組みづくりや、日常生活の中で「ちょっと助けてくれる人」のような人材のリスト化をする必要があります。
- 平成 27（2015）、28（2016）年度アンケート結果から、「回覧板のある自治会は、加入者を増やしながら情報を回すことが必要」、「若い人を巻き込み、自治会への加入を促しながら、必要とされる情報量を増やしていくことが大切」という課題が見えており、情報を普及させるためには地域の交流やコミュニティの活性化にも力を入れていく必要があります。
- フェイスブック学習会の参加対象が部会員だけにとどまっており、企業や他団体への呼びかけには至っていないため、さらなる運用にあたってのルール作成や、部会に限らず市内のさまざまな活動が掲載されるよう、呼びかけていく必要があります。

これらの「継続的な課題」については、第2章「西東京市における地域の福祉課題」とともに、第4章においてとりまとめ、第8章「施策の展開」の目標達成に向けたおもな施策に反映させ、課題解決に取り組みます。